



日進北小だより

令和4年11月1日 11月号 第7号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～やる気を育む日進北小・授業が楽しい日進北小～



応援団に立候補する

校長 平塚 信也

コロナ禍での運動会も3回目となりました。今年も人数制限をさせていただきましたが、応援の声等幾分緩和して開催します。当日は良い天気であることを願っています。

校長室にいと校庭での練習の声が聞こえてきます。各学年が追い込みに励んでいる様子が窺えます。どの学年も素晴らしいのですが、一番仕上がっているなど感じているのは応援団です。どうしてこんなに早く仕上がっているのか不思議なので応援団長に来てもらって聞いてみました。「団長には立候補しました。親の勧めもありました。また、自分が1年生の時、兄が応援団をしていたのを見たのも理由の一つです。」「僕も親の勧めもありましたが、今、自分は6年生で小学校の運動会は最後だから、みんなを盛り上げたいと思って立候補しました。」さすが6年生にもなると、学校の雰囲気を作っていくのは自分達だとの認識があるようです。「まだ終わってはいないけど、勝ち負けよりも応援合戦がうまくいくと嬉しいです。自分が輝くのではなく、応援団が一つになって輝ける運動会にしたいです。」と話してくれました。

応援団はリレーの選手などと違い、特に何か特別なものが必要なわけではありません。やろうと思えば、誰でも立候補することができます。だからこそ手を上げるには勇気が必要です。声を出して、みんなを鼓舞するためには普段と違った大きな声を出す必要があります。自分自身の殻を破り、思い切って挑戦することが必要です。6学年の担任は、実行委員（運動会や修学旅行、卒業アルバムなど）を設けているようです。その中の一つとして応援団に立候補してくれました。応援担当の教員からは、業間休み（20分休み）あるいは昼休みのどちらかで練習する計画が出ていたようですが、練習のない休み時間も自主的に体育館に集まり、毎日練習していたそうです。自主練とはいっても全員が集合して練習していたと聞きました。自分で決めて、やりたいと立候補したことだから、大変でも頑張れたのでしょう。

コロナ禍で異学年の姿を見る機会が減ってしまいました。運動会は全校で行います。応援団のキビキビとした態度、大きな声を出す立派さに低学年の子どもはあこがれることと思います。学校によってはなかなか応援団が決まらない学校もあると聞きます。日北の応援団への立候補は伝統としてつながって欲しいと思います。見られているのは応援団だけではありません。2年生は1年生に、中学年は低学年に、高学年は低・中学年に見られています。足が速いとかダンスが上手だとかだけではありません。ラジオ体操の態度も、応援の態度も、係の仕事も全てが見られています。見られることで自分の立ち位置を感じ、どのような態度を取れば良いか考えます。見られる事で成長します。どの子にとっても運動会は成長する機会です。

保護者の皆様にも今年の運動会では、優勝したとか、順位とかの結果以外に、お子様の何を褒めれば良いのか、ぜひ考えながらご覧いただければと思います。保護者の皆様の褒め言葉が子供を成長させます。よろしくお願いいたします。

本年度も地域の皆様においでいただくことは叶いませんでした。早く日常が戻ることを切望します。今後とも学校へのご理解ご協力をお願い申し上げます。

さて、いよいよ今週の土曜日が本番となります。週明け後に子どもたちの満足な顔が見られることを楽しみにしています。運動会の練習を見ているとたくさんの感動の場面に出逢います。徒競走の練習はないのですが、足の速い子も遅い子も全力で走る姿に心を打たれるのは大人になって全力で走ったことが無くなったからかもしれませんね。

子どもが成長する姿を見るとき親は安心し、喜びを感じます。子は親に感謝し、また親もまた喜びを与えてくれるこどもに感謝する。そんな関係が大切なのですね。

積極性、自発性を育てたい。これは教師が常にねがっていることです。

応援団は5年6年の各クラスから男子3名、女子3名が出てきています。6年生にどうやって決まったのかきくと、立候補との話でした。(クラスによっては残り1名が足りず、保留になったが翌日立候補してくれたところもあったようです。)学校によってはなかなか決まらない学校もあります。それは、応援することや大きな声を出すことに価値を置けない学校だからです。自分自身の殻を破り、思い切って挑戦する。失敗したら格好悪いかも、目立つと恥ずかしい子かもなどと上部だけのプライドがあるのです。そしてそれがかっこいいと勘違いしてしまうような変に斜に構えた雰囲気があるのです。本校では皆が前向きに捉え、ていてよかったですと思います。運動会は全校で行う大切な行事です。この運動会で何を学ばせるのか少し考えてみました。1、いろいろな児童がいること。

2、お兄さん、お姉さんの年上の演技、競技を見ること

3、応援団に憧れがあるようです。昨年まで応援団だけが声を出していました。第1回目の練習を見て、今年は全員がマスクをして声を出すこととしましたが、やってみると声が出ません。いかに人任せで応援していたかが良くわかりました。自分事とすることが大切です。

4、今、学校では主体的・対話的で深い学びを目指しています。運動会の練習で、運動会の本番でどのくらい子どもたちが深く成長するのか楽しみです。

5、「君たちはもっとできる。」「やる気を見せなさい。」「声を出しましょう。」「他人を応援しましょう。」校庭に先生方の熱い声が響きます。家族や兄弟に見せる目標で主体的になったでしょうか。

6、運動会はわくわくするか。応援団の団長に聞きました。(わくわくエンジン)

7、でも、運動会の練習が嫌な児童もいます。やらされたくない。指示されたくない。

最近では組体操でいつも度台、いつも上で怖い思いをするというようなことはなくなっています。

団長は立候補で決めたいと思っていました。

親御さんが進めてくれた。いい思い出になるし、最後の運動会だから自分が盛り上げていこうかなと思った。

1年生の時に兄が太鼓をやっていた。

まだ終わってないけど、声を使うので疲れる。

練習は昼休みに行った。

行間は自主練をやっていた。あか、白集めて体育館で自主練をやっていた。全員来ていた。委員会とかで先生に断って送れる人はいるけど全員いる。

大変なことはない。去年もやったから

学校で大声を出すことができないけど大声を出すことができストレス発散になる。ストレス、テストの点とかストレスはある。いろ色とある。

よかったことは、なんかまあ6年生最後だから良い経験になった。人前でやるいい経験。組とかだかでなく協力できてよかった。元キャプテン。学年のキャプテン。をやった。6年のチームのキャプテン。Aチームのキャプテン。応援団長の言うことは聞いててくれましたか。反発することはなかった。ただただおっけい。

団長として考えていることはありますか。本番では大きな声を出していきたい。

自分が輝けるだけでなく、応援団の塊として輝けると良い。今年はこの行事があるからこの経験は役に立つと思いますか。人前で声を出すことや、中学で授業中に発言する時にも役に立つ

と思う。

「自分で決めたことだから」心の底からやりたいと思ったことこそやり遂げることができるのだと。だから、周りの人の声ではなく自分の言葉に耳を傾けてください。そして、自分が求めている通りに行きましょう。

挑戦する事

保護者の後押しがあった。運動会はこれからも午前中で実施の予定です。子どもの体力を考慮するため。

10歳の君に送る心を強くする言葉

何かに挑戦する機会

高学年になると学年のために何かの実行委員会をやってもらうという活動をする場合があります。春先に1年間の予定を知らせ自分がやりたい係を選びます。その中の一つに応援団があります。他の